

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット3)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0171400146), 法人名 (社会福祉法人 敬聖会), 事業所名 (グループホーム ききょう), 所在地 (函館市桔梗町557番地), 自己評価作成日 (令和4年 2月), 評価結果市町村受理日 (令和4年5月9日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0171400146-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和4年3月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者職員が生活を共にするという考えを大切に、ゆったりとした空間であるよう努めている。加齢による心身の変化についても協力病院と密に連携を取りながら、出来る限り本人の意向に沿って対応できるよう努めている。ケアの質の向上を目的に職員個々のレベルに応じた研修へ参加したり内部研修を行い、スキルアップに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の北方向に位置する桔梗町の丘陵地にある2階建て4ユニットのグループホームである。敷地内には、法人グループの医療機関や老人保健施設、ケアハウスがあり自然に囲まれ、函館山や市内が一望できる眺望の良い地区である。運営法人は、医療法人を母体とした社会福祉法人がケアハウスとグループホームを運営しており、当事業所は介護保険制度開始後間もなく開設したグループホームで、24時間の医療支援体制を構築している。ホーム内は、1フロア2ユニットの2階建て4ユニットで、玄関を挟んで左右対称にユニットが配置され、利用者がユニット間を往来し広いホーム内を散歩している。居間には、畳の小上がりもあり、広くゆったりとしたリビングで利用者はいつも寛いで過ごしている。また、居室にはトイレと洗面台が設置されプライバシーに配慮している。介護の業務記録は、ICT化を進めており、コロナ禍に於いての面会自粛中は、GoogleDUOを活用したWEB面会やスマートフォンやタブレットを活用した面会で支援しており、利用者と家族との絆を可能な限り維持できるよう努めているアットホームな事業所である。認知症高齢者の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (0-4), and Achievement Level (0-4). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, staff interaction, user independence, staff support, user outdoor activities, user safety, and user satisfaction.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エントランス、ユニット玄関、スタッフルームへ提示を行い、スタッフ一同で共有を行いサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、行事等で交流の場を設けていたがコロナウイルス感染予防として控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて町会役員、民生委員の方に参加して頂き事例のもとケア方法を伝えていたが感染予防の為に取組んでいなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	主に主任を主体に意見や要望を聞きサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が主体に窓口となり、連絡を取りやすい体制を整えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、緊急時以外は開錠している。各ユニット間の行き来も自由になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて学ぶ機会を設けたり、主任ミーティングにて拘束について話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修には感染予防の為参加出来なかったが資料や勉強会にて理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長、主任が主となりご家族の不安や思いを聞き、理解を協力を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、又は電話連絡にて近況報告を行い、ご家族からも意見や要望を聞き反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにて個人面談を行っている。申し送りの他毎月のユニットミーティングにて意見や提案を聞き反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別休暇や、年2回の賞与の福利厚生を整備を通じやりがいのある環境であり、向上心を持てるよう研修会への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や力量に応じ行事の計画、段取りを行う役割を持ちやりがいを感じられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内での研修や外部での研修会への参加を通じ意見交換や話し合いの機会を設けていたが、感染予防の為出来なかった。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談では普段のご本人の様子を引き出せるようリラックスできる環境作りに努め要望を出来るだけ聞き思いをくみ取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の他電話での相談を行い求めている事、不安な事等細かな事でも話を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族だけではなくご本人からも聞き取りを行う時間を設け必要な支援について見極めを行いサービスを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族より情報を頂きながらご本人が得意とする物を一緒に行ったり、日々の生活の中で掃除や洗濯等を一緒に行い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告をまめに行い、一緒に現状を見直しているような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室に電話を置き、自由に連絡して頂き馴染みの関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方向士が過ごせるような席の配置にしたりスタッフが介入しながら関わりを持ち孤立しないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況について聞く機会を持ち必要に応じて支援出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で希望や意向等が出た場合記録に入力し職員間で情報の共有・把握に努めている。又、月に一度開催しているユニット会議でも個人の希望等を踏まえ検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様や前サービス利用があった施設や病院の担当者から情報を頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントまとめシートや焦点情報を使用しユニット職員が現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度開催しているユニット会議にて職員間で話し合いを行ったり、ご家族様には面会時や電話にて現状を報告し意見を頂いたりしている。主治医には受診時に御本人の病状のケアについて指示を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングでは、日々の個人記録を参照したりユニット会議内で情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院と連携しリハビリの支援等行ったり、往診に来ていただきサービスの提供を行っている。現在はコロナ禍で外部サービスの提供は行えていないが以前は訪問マッサージ等も実施していた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外出や買い物等の地域資源の活用は出来ていないが、訪問の売店等を使用して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては入居前に御本人や御家族の要望を聞き納得が得られたかかりつけ医に入居後も受診できるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際に看護師が同行し情報や日々の変化等を看護師に伝達し適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院があった場合病院の医療連携相談室等とこまめに連絡・相談しお互いに情報の共有を行い入院時の不安や退院時の心配等を和らげる様になっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期に関しては御本人には認知度によってではありますが話し合いを行ったり御家族には施設で出来る事を説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に関してはマニュアルを作成し確認を行ったり定期的に施設内や施設外での研修に参加している。又、研修に参加できない職員には資料の配布やユニット会議内での勉強会を通じ実践力を付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震等の自然災害時の避難について毎年避難訓練を実施したり緊急連絡網を作成している。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や尊重について勉強会を行い職員はそこで再確認や再認識を行い実践で実施出来るようにしている。又職員間でも注意できる環境にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間や就寝時間は各個人に合わせ行っている。誕生日の日は御本人が好きなメニューを職員が作りなるべく希望に添える様に支援している。肉や芋が嫌いと希望があった場合代替品を用意したりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴に関してもその日入りたくない場合は別の日に再度声がけを行い支援している。上記と重複しますが就寝や起床時間は御本人の希望にそって行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は訪問を使用しているが御本人の希望を優先しカットして頂いている。又普段の洋服については自己決定出来る方はして頂きそれ以外の方は職員が季節や室内の温度を考え選んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクや普段のおやつ時には野菜の皮を剥いて頂いたり、団子等を作成して頂いたりしている。片付けに関しては、身体機能がしっかりしている方は台所まで持ってきて頂いたり、茶碗拭きやテーブル拭きを実施して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量はチェックシートを活用しスタッフ間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自身で行えない方の補助、介助を行い口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を把握することに努め、行動や仕草で見極めトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便間隔を見極め、Drへ相談しながら便秘解消に取り組んでいる。薬だけではなく、飲み物、食べ物、運動にも気を付け予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日に関わらず、入りたいタイミングで入浴出来るよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活スタイルに合わせ、消灯時間も起床時間も決めずに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には用法、副作用を薬情をよく見て把握し服薬時は飲み込みまで確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や生活スタイルについてご本人、またはご家族から情報を聞いたうえでその方に応じた個々の楽しみの時間が過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為外出は控えていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族や御本人から希望があった場合は自己責任にて金銭の所持をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内では固定電話も置けるようにしており設置していない方にも施設の電話を貸し出しやり取り出来るようにしている。又コロナ禍で御家族とオンライン		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけをしている。又、定期的な換気と湿度を保つよう心掛け混乱や不快な気分へとつながる物は取り除き過ごしやすい空間作りを行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンのソファの位置や食事の席の配置等に工夫を行い、過ごしやすいようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は御家族と相談し、出来るだけ馴染みの物を持ってきて頂くようお願いし居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険となる物は手の届かない場所へ、必要な物は取りやすい高さに置き物の配置に工夫をしている。		